

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年10月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103524
法人名	医療法人 起生会
事業所名	ハートフル林
所在地	鹿児島県鹿児島市武二丁目32番19号 (電話) 099-257-6977
自己評価作成日	令和3年9月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の医療機関との連携、訪問看護、24時間訪問看護師との連携体制、他科往診など安心できる医療体制を整えている。去年に引き続き、感染予防対策において、新たに高性能な空気清浄機を導入し強化している。入居者様は、直接ご家族と会えない状況が続いているが、リモート面会、ガラス越しの面会を実施し、多くのご家族が入居者様との交流を続けている。また、職員も入居者様の外出できないストレスをいかに発散出来るかを日頃から考え、レクリエーション等に工夫を凝らしている。理念を念頭に、優しさと思いやりの心を持って日々頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業者は新築の建物で、利用者や職員が使いやすいような構造となっており、安全性や自由にコミュニケーションが図れるサロンもある。多目的スペースもあり、地域に開かれたコミュニティスペースとして活用できる。
- ・当事業所は母体医療機関や関連施設が道路を隔てた真向かいにあり、医療機関との連携、24時間訪問看護師との連携体制で健康管理をしている。また、避難訓練時の協力体制も構築している。
- ・コロナウイルス感染禍で蔓延防止対策期間中以外は、利用者や家族の希望で、窓越し面会時には事業所電話の子機で会話できるよう工夫支援している。また、感染防止対策の基、個別での買物や自宅まで外出、ドライブ、家族の協力で墓参り等の支援をしている。
- ・職員の意見を取り入れ、感染対策の一環でユニフォームを作成し、安心して働ける環境作りをしている。また、有休が取れる環境を心がけている。
- ・管理者や介護部長は職員がユニット間交流で全利用者について把握でき、緊急時の対応ができる体制を整えている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、優しさと思いやりの心を持ちコロナ禍により地域とのつながりは難しいが、入居者様とご家族とのつながりを大切にできるよう支援している。	理念は、玄関や各リビングの事務所に掲示し、重要事項説明書やパンフレットにも掲載しミーティングで2ヶ月毎に振り返りをしている。理念を全員がネームの裏に添付し、共有して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と交流したり運営推進会議にて意見交換している。	町内会に加入し、地域情報を得ている。地域行事はコロナ感染禍の為自粛している。感染対策を行い広い駐車場で近隣の保育園児から歌や遊戯・プレゼントを頂く等の交流をしたり、散歩時の挨拶で日常的に交流している。1階の相談室で地域の相談にも対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ホーム内に地域の方々に使って頂ける会議室等もうけている。散歩に行った際地域の方々とコミュニケーションを図れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により出席者の人数が少ない中ではあるが、貴重な意見を頂き地域の現状等把握しサービス向上に生かしている。	会議は2ヶ月毎に開催し、入居者の状況や伝達事項など報告を行い、意見交換している。町内での災害に対して意見交換を行い避難について検討した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括の方に意見を頂いたり、長寿あんしん課に出向き相談したりしている。	市担当者とは、直接窓口に出向き、書類の申請や困難事例の相談等、日頃から連携し協力関係を築いている。福祉担当者とも電話で情報共有している。市研修会には動画配信によるズームで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	町の中心ということもあり以前も不審者があり安全面にて入口の施錠は行っているが希望に応じて出入りは自由である。委員会も設置し定期的に勉強会を行い正しく理解している。	身体拘束廃止委員会を設置し年2回身体拘束や心の拘束について勉強会をしている。言葉遣いについて日頃からカンファレンスで、ネット資料を用いて、随時勉強会している。ユニットの出入りは自由で、外出しそうな場合は見守り、充分話を聞いた後、散歩、ドライブする等、その人に寄り添う支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待の種類を学び、虐待が見過ごされないよう徹底している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会にて理解を深められるようにしている。実際に利用されている入居者様もいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者または計画作成担当により、重要事項説明や契約書等読み上げ、理解、納得していただきサインを頂いている。ご家族の不安や疑問点には常に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置。電話や面会時、ご家族からの要望、意見等頂いた際はすぐに対応している。運営推進会議等で報告したり、内容によっては他部署とも連携し対応している。	利用者からはおやつ時や夜間・入浴中の会話の中で意見や要望を把握している。家族からは利用者の日常生活の様子を一筆箋に書き、個別の写真を添えて郵送し、電話や面会時に意見や要望を聞いている。第三者へ表せる機会も設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングにて意見を出したり話し合いをしている。	月1回のミーティングや日々の関わりや申し送りなどで職員からの意見や提案を聞いている。管理者や介護部長は年2回の個人面談や随時個人的な相談も受けている。電動ベットの購入で介護ケア負担軽減に、感染対策として2色のユニフォームを取り入れ、職員が安心して働ける環境となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>全職員を対象に人事考課を実施し評価する制度が整っている。また、気になることがある際には、気軽に上司に相談できる環境を整えている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍で施設外研修への参加は難しい状況であるが、施設内研修を充実させることで職員のスキルアップに努めている。資格取得を希望する職員への支援も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍で交流会等が実施されないため難しい面が多い。しかし、オンライン等を使用して可能な範囲で意見交換を実施しサービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントをしっかり行い、それを元に本人様に寄り添い、傾聴し思いに共感し気付けるようにしていく。住み慣れた環境に少しでも近づけるように配慮していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の時から困り事、不安な事等聞き取りをし少しでも不安が取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番の困り事は何か、優先すべきことを話し合、いそれに応じて他のサービス利用も検討できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身で出来ることはなるべく自身で出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお電話を頂いた際入居者様の状況を報告し、お便り等にて近況報告等行っている。ご家族にご協力頂けることは協力して頂き、ともに入居者様を支えていく関係を築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限がない限り、馴染みの店に行ったり、ご家族の協力の下外出、外泊できる環境である。	入居時に利用者の馴染みの人等の関係性を把握している。県下にコロナ蔓延防止対策期間中以外は個別での買物や家族の協力で墓参り、誕生日には希望で外出、ドライブなど支援している。訪問理美容を利用し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやお茶の時間を使い職員が媒介となり他者とのコミュニケーションが図れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も他部署の連携室の方に経過を伺ったり、ご家族も相談できるように、相談室も設けている。電話での対応もいつでも受け付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や行動から思いを汲み取り全職員で共有し話し合い、支援できるように努めている。	日常の会話や行動から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は入浴時の全身観察、声掛けでの表情の変化、声音等を、入所当時からの生活を基に意見交換し、家族の情報も取り入れ、本人本意に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にアセスメントを行ったり、会話の中に出てくる馴染みの場所や物を全職員で共有しケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の暮らしの把握をし、今現状のADLの把握、会話や行動からの心身の状態を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の望む暮らしを聞き取りしたり生活の状態についてカンファレンスや担当者会議を行い本人様に適したプランの作成、見直しを行っている。	本人・家族の意見や要望を取り入れ、主治医や訪問看護師・必要時は薬剤師・栄養士などの関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎、6ヶ月毎に見直し、状況変化時は、その都度見直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動や様子、会話等しっかり記録し申し送りにて情報共有してプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員だけでは対応できないことでも連携している他部署と協力しいろいろなニーズに対応、実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物支援を行い地域の方と触れ合える機会を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族の希望されるかかりつけ医で対応できるようにしている。往診対応の病院以外にはご家族に協力頂き、ヘルパー対応もできるようになっている。	本人や家族の希望を大切に支援している。母体医療機関で月1回、職員同伴の定期受診があり母体以外の協力医療機関の受診は家族対応である。訪問看護師との24時間医療連携体制で週1回の健康チェックがある。皮膚科・歯科・精神科は往診で対応する等、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	医療連携加算をとっており、24時間看護師との連携体制、週に1回の訪問看護を受ける体制を取っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	介護サマリーの提供を行い連携室の方とも連絡を密にとり一日も早く退院できるよう動いている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時、重度化した場合の対応に係る指針、終末期医療の意向書についての説明し同意していただいている。他、状態の変化時ごとに主治医、ご家族、職員にてしっかりと話し合い今後の方針を決め支援している。	契約時にマニュアルに沿って説明し、同意書を貰っている。状態変化時は職員同席で主治医から家族に説明があり、話し合いをしながら意思確認し、方針を共有し支援している。看取り事例がある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	24時間看護師との連携体制が整っており指示が仰げる体制である。フローチャートがすぐ確認できるところにある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災に関しては年に2回、地震、水害に関しては、年1回、避難訓練を実施している。林内科胃腸科病院、近隣施設と協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の避難訓練をマニュアルを基に昼夜間想定で、消防署の指導の下、火災時の利用者参加の避難訓練・消火訓練を実施している。自主訓練で地震や水害の避難訓練も行っている。母体医療機関や関連施設の協力体制を構築している。非常用の備蓄は水・缶詰・乾麺等を用意している。カセットコンロや懐中電灯もある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際のノック、声掛けの徹底。排泄、入浴介助の際の羞恥心へ配慮した介助、声かけ。入居者様を人生の先輩であり敬う心を忘れずけあにあたる。	マニュアルを基に全員参加の接遇研修を実施している。ミーティングで言葉遣いについて勉強会も行っている。排泄時や入浴介助時はドアやカーテンは必ず閉め、大きい声での声掛けをせず、羞恥心に配慮した対応を心がけている。更衣時の洋服は自由に選択できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で思いや希望を話しやすい環境作りに努め、意思疎通のできない方でも日頃の行動や表情の変化を気づき思いをくみ取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望に沿い買い物や散歩など支援し、日々のレクリエーション、食事、入浴等の際も本人様の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝の洗顔、顔の清拭、整髪、定期的な訪問カット利用、更衣時等、出来るだけ本人様の意向を伺い支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食レクの実施、外食レク実施、食べたいものの聞き取りをし、メニューに取り入れ、彩にも気を付けている。たまに、できる方には皿洗い等お手伝い頂いている。	献立は1週間単位で作成し、栄養士のアドバイスや月1回直接、摂取状況を確認している。食形態は個別に応じて、ミキサー食や一口大カット等で提供している。下準備はもやしのヒゲ取りや団子丸め・後片付け・台拭き等を一緒にしている。行事食やおはぎ・たこ焼き・お好み焼き等を作り、食べることを楽しめよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量のチェックを行いその方にあつた量の提供、月に一度の連携する部署の管理栄養士による指導にて本人様に合った食事の提供を行っている。病状により主治医の意見も頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りの中実施している。介助が必要な方もスポンジブラシ等使用し徹底している。必要な方は歯科往診も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄チェック表を記録しパターンに応じたトイレ誘導、声掛けを行っている。介助が必要な方も職員2名介助にて対応することもある。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、動作や表情など、小さな情報も共有して日中はトイレでの自立した排泄を支援している。羞恥心に配慮した対応で支援する体制を整えている。ポータブルトイレを使用することもある。2人介助の支援で排便状態が良好となった事例もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操や、食物繊維の多い食材を取り入れたり、水分摂取の少ない方への声かけを行い予防に取り組んでいる。トイレ使用時の体制も助言しスムーズに排泄できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に入浴日、時間帯(AM)は決めてあるが、本人様の希望にて変更も可能である。	基本的に週2回、午前中の支援である。希望で同性介助や入浴順番・湯温も対応している。拒否がある場合は声掛けの工夫、時間調整で対応したり、翌日支援することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は自由。訴えのできない方については状態をみて休んで頂いている。居室の明かりも4段階で調節できるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により薬の管理を行っており指導されている。個人別のファイルもありすぐに確認できるようになっている。体調に変化があれば訪看に相談したり主治医に報告、相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の仕事や得意なことを活かせる作業、レクリエーションの提供を行い、生きがいや自信、楽しみにつなげられるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には困難だが、本人様の希望を聞き、家族の協力のもと、外出、外食レクの計画、実施をしている。	入居者の体調や天気を配慮して近隣の公園までの散歩や敷地内の事業所周辺での外気浴支援をしている。希望で個別に買い物やドライブ・自宅まで外出・七夕の笹を調達にでかける等、外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援や欲しいものがあつた場合本人様に代わって購入できるように体制を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも家族や知り合いと電話が出来る状態である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、消毒、換気をこまめに行っており、室温、湿度も管理している。ロールカーテンにて光の調節をしたり季節に合った壁画作りを皆でし、季節を感じて頂いている。	リビングは空気清浄機を配置し換気・温湿度・採光を適度に調整し、過ごしやすい環境となっている。サロンもあり、家族の面会や日常的にコミュニケーションができる。手作り作品を掲示している。テレビやソファもあり、生活感や季節を感じられ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本席は決まっているが、トラブルが起こった際は席替えをしたりし様子を観ている。外を眺められる場所に椅子を置いたり一人でもゆったりと過ごせる空間作りを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを使用していただいている。家具の配置も本人様の過ごしやすいように工夫している。	居室には電動ベット・ロールカーテン・エアコンを設置している。寝具類・タンス・家族の写真・ハンガー・化粧品などを持ち込み、作品を掲示し、本人が過ごしやすいよう工夫している。ポータブルトイレ使用の場合は、安全性を考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場、フロア等あらゆる場所に手すりを設置している。トイレ、居室の表示をし安心して安全に過ごせるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない